

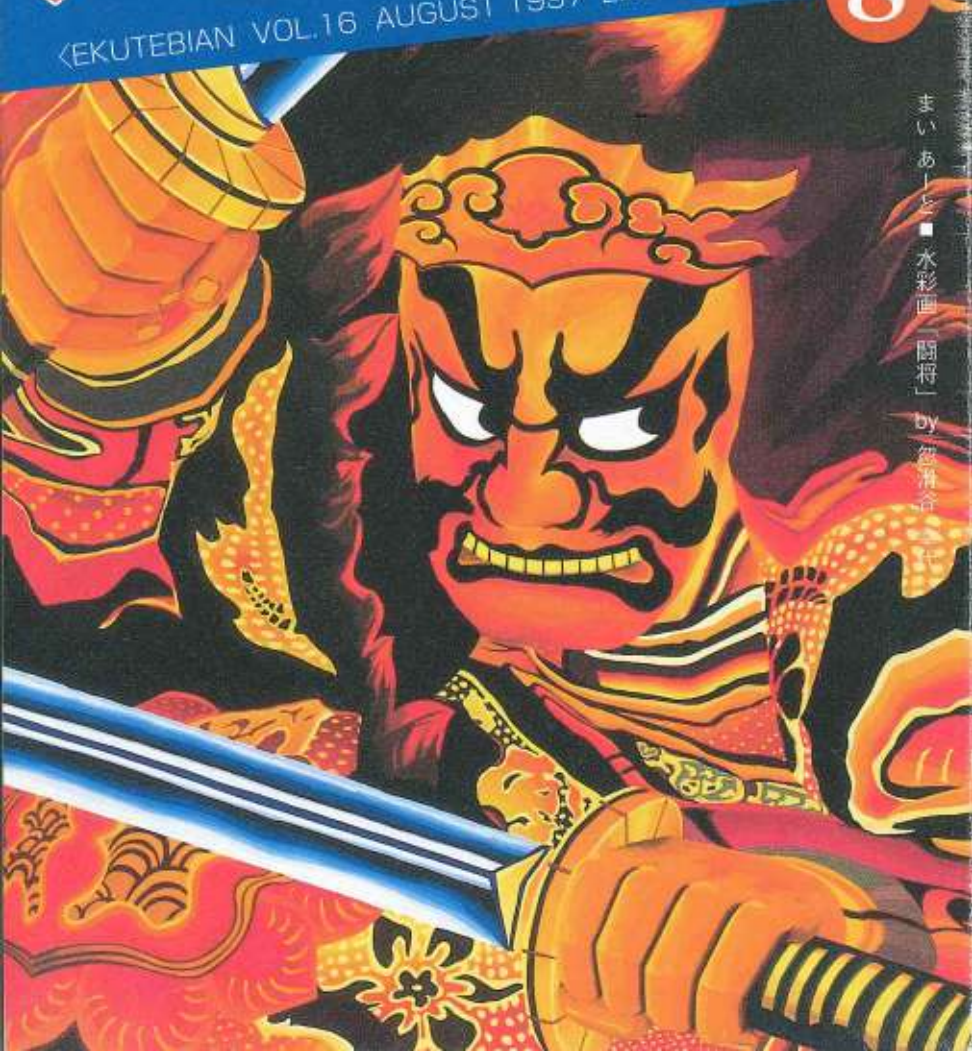
月刊

立川と語ろう 立川に生きよう

# えくてびあん

〈EKUTEBIAN VOL.16 AUGUST 1997 EKUTEBIAN〉

8



まいあーと ■ 水彩画「闘将」 by 忽滑谷

キンポウゲ科

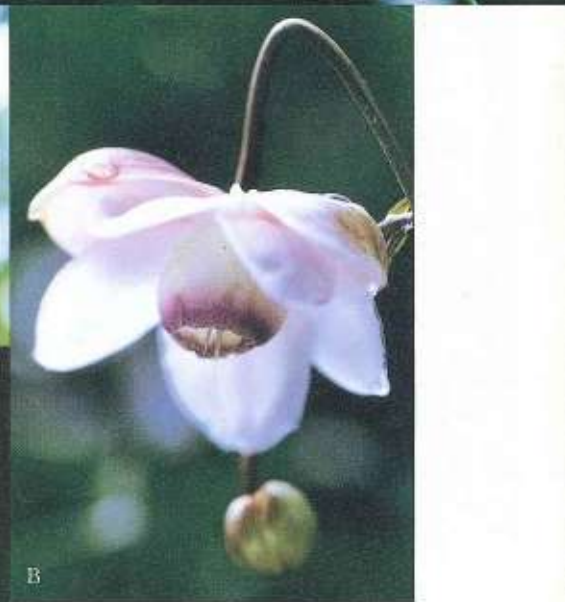
## レンゲショウマ

撮影：宮城六郎 (A) 菅沼久子 (B)  
松枝悦子 (C) 矢部千重子 (D)  
富士光男 (E)

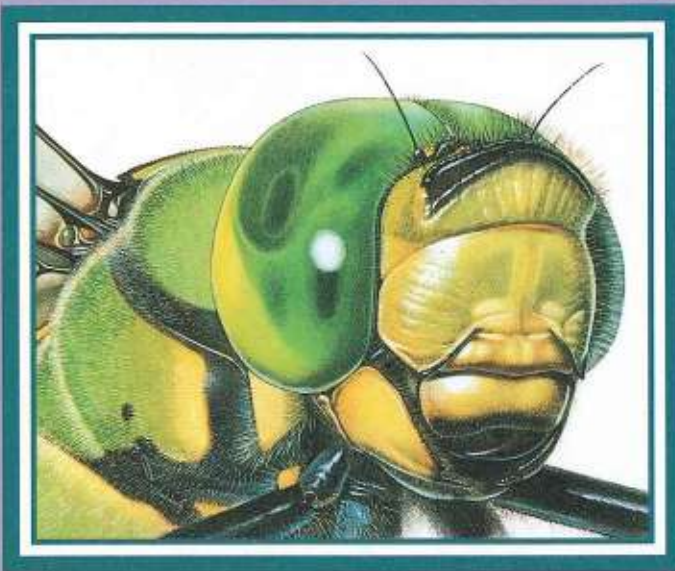
若い頃、雲取山に行けばレンゲショウマの花に出会えるとの情報に、喜び勇んで当時大学生の娘と一緒に夏の暑い日に登った。暗い木陰に揺れている花はすばらしかった。翌朝山小屋を出発するとき、頼んでおいた昼飯のおにぎりを受けとるのを忘れていた。昼になって食事にしようとした時初めておにぎりが無いことに気が付いた。やむをえず非常用の乾パンをポソポソと食べたが、今となると楽しい思い出の1ページになっている。

レンゲショウマは、日本特産植物の一つであり、花がハスに、葉がショウマに似ているところから付いた名である。

レンゲショウマ

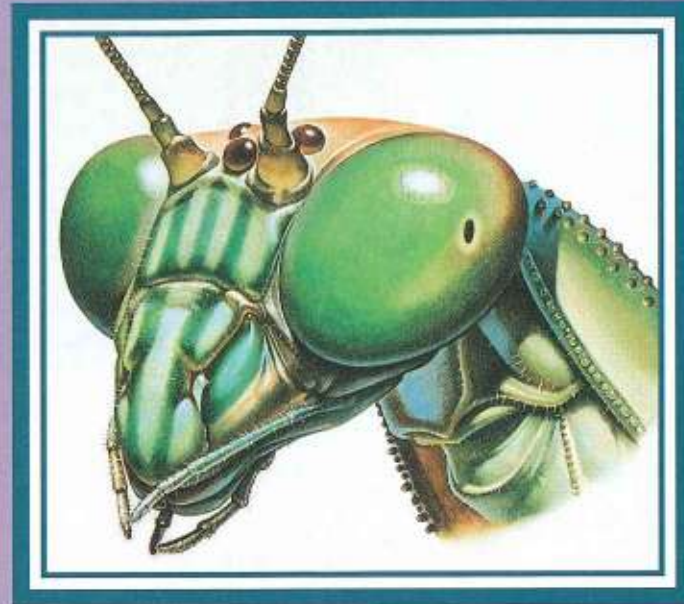
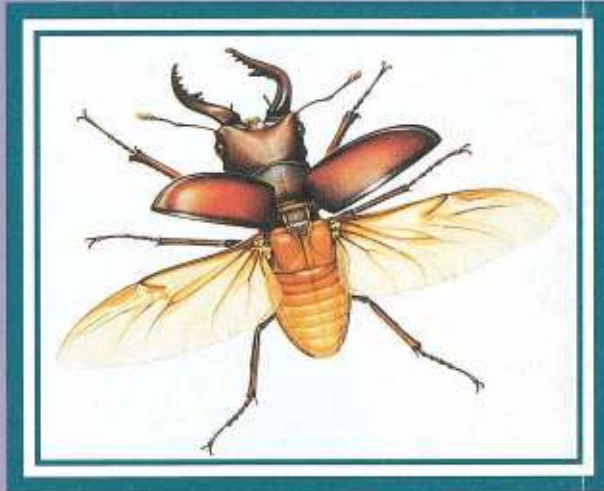






クロズギンヤンマ (ヤンマ科)  
昔は空が暗くなる位とんでいた。

ノコギリクワガタ (クワガタムシ科)  
平地のクスギ樹液に夜集まる。



オオカマキリ (カマキリ科)  
動くものしか食べられない。

### えくてびあんレポート

# 麦藁帽と虫採り網、 そしてかつての少年たちへ

## ～『立川昆虫記』最終版～

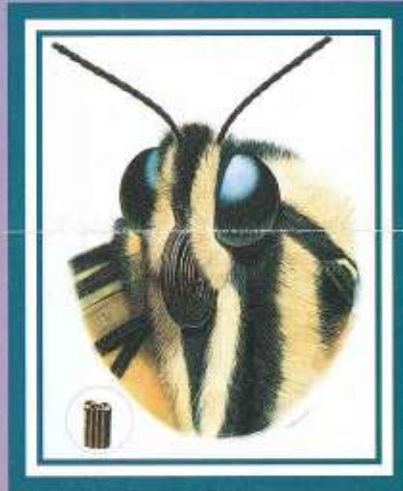
マンガの神様とまでいわれた手塚治虫は、少年時代、採集した昆虫を精密に模写し“画集”を作っていたと伝えられています。「私もまったく同じことしてました」と笑うのは、先月号まで『立川昆虫記』を執筆して下さったサイエンスイラストの第一人者、中西章さん (若葉町)。道具はなんと筆1本。写真と見紛うばかりの精密さで描かれた昆虫たちは、毎回読者の大きな反響を呼びました。夏。麦藁帽と虫採り網のあの頃を思い出しながら、“わが街のフェアブル” 中西さんの世界をもう一度、お楽しみください。(関連記事、裏面に掲載)



アキアカネ (トンボ科)  
赤トンボは生まれた時は赤くない。



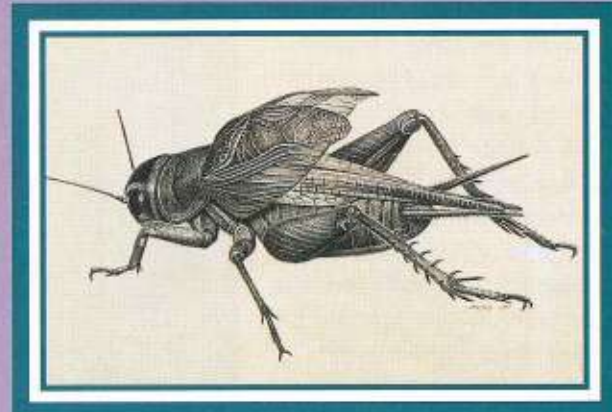
ナミアゲハ (アゲハチョウ科)  
口が長いので深い花でも吸蜜できる。



ナミアゲハ (顔) (アゲハチョウ科)  
小さな庭のミカンにも産卵に来る。



トノサマバッタ (バッタ科)  
イネ科の植物をたべる虫の顔です。



エンマコオロギ (コオロギ科)  
鳴き方に变化があり、鳴く虫の王である。



シリーズ この人と 1時間③

「雑木林」が教えてくれた さまざまなこと

画家・サイエンスイラストレーター 中西 章さん



◆中西 章 (ながにし あきら) 昭和5年、和歌山県生... 幼い頃から昆虫や植物の生態に興味を持ち自らに研究... 武蔵野美術学校 (現武蔵野大学) にて洋画を学んだ後、森... 味の生物研究と画家としての技術を生かし、雑誌、科学雑... 誌・参考書や絵本など様々な出版物に作品を提供。この分... 野での第一人者として活躍。美術も、現在、本業の傍ら、 「くにたちの自然屋」等、各種イベントで講師も務める。 ◆立井啓介 (たてい けいすけ) 月刊「えくてびあん」編集人



モノゴコロつく頃から、虫の絵を描いてました。立井 中西さん、一年間の連載、本当にありがたうございました。中西 いえいえ、こちらこそ。立井 読者の方に話をうかがうとね、皆さん、昆虫の話をしているのに、だんだん顔つきが「少年少女」になってくる(笑)。中西 はあ、なるほど(笑)。立井 「そういうのはこの虫、見なくなつたねえ」なんて、ノスタルジイというか、森も木も少なくなつて、なんか素淡(さくはく)とした話になってしまつて。中西 表面に載った昆虫は、立川でも別と身正に見ることができたものばかりですからね。立井 虫採り、やりましたものねえ。やっぱり、人一倍昆虫好きだったんでしょ、中西少年。中西 もう、物心つく頃から昆虫採りにしてましたね。親父は学校の教師だったんで、本なんか家から割とたくさんあつて。それと兼業で農家もやってたんで。昔は田舎だとそういのは珍しくなかつたんですが、まあ、百姓っていうのは昆虫を知るには絶好の仕事で(笑)。畑の害虫を捕まえるやあ、ジツと観察したりしてねえ。立井 それを絵に描くという作業もその頃から?中西 ええ、小学五年くらいですか、捕まえた昆虫を飼育して記録をつけてたりとか、こう、細かく観察してね。その後、試験受けて入った中学(旧制)がとて設備が整つてい

田園将蕪 陶楽明の高名な詩の「節」 「掃りなんいぞ、田園将に蕪」に由来して。早く故郷へ帰ろう、田園も荒れはてようとしているではないか、とつづいて帰らないわ

真知苑 立川に育てられて六十年 絵の具、筆、水彩の絵の具、透明水彩の絵の具です。立井 ああ、あの絵の具を揃くくらいだから、もつと何か物々しいものを想像してたんで。いやあ、これであれだけのものが揃ってしまふんですね。中西 それらしいのは、この顕微鏡くらいですね(笑)。立井 これで覗きながら描くわけ

「マイバンク」がパートナー ハートの銀行 第一勧業銀行

立井 さつきから気になってたんです。中西さん、絵の道具はこれだけでいいですか。中西 ええ、筆と水彩の絵の具、透明水彩の絵の具です。立井 ああ、あの絵の具を揃くくらいだから、もつと何か物々しいものを想像してたんで。いやあ、これであれだけのものが揃ってしまふんですね。中西 それらしいのは、この顕微鏡くらいですね(笑)。立井 これで覗きながら描くわけ

Wistaria メイクしてみませんか? ハアにも

立井 剪定する?中西 いえ、根元から切つてしまふんですよ。その木で人間は炭を作ったり、椎茸などの「ホダ木」にしたり活用するんですよ。立井 切られた根元の方はどうなるんですか。中西 古い木はだめだけれど、15年くらい若い木は、また芽が出てきて再生するんですよ。そうするとね、昆虫の中には若い木しか食べないものがあるんですよ。その木が、それらの虫の絶好の餌場になる。さらに椎茸なんか取り入れたあとにホダ木は、積んでおくとカブトムシやクワガタの絶好の住処になる。そういう虫たちの恩恵で土地も肥えていく。立井 なるほど、上手くてまますねえ。しかしそうすると、雑木林というのは、ある意味では純粋な自然とは言えない。人間の手が加えられているということになりませんか。中西 いや、手を加えるということよりも、むしろ人間の「役割」を全うするということでしょうね。放つたらかたはなくて。立井 ああ、生態系の一員としての役割ですね。中西 そう思います。立井 しかし人間も馬鹿じゃないから、そういうことに気づいてはいるでしょう。森や緑を残そうという声も、ここ最近、いろんなところで耳にします。中西 パールの時には、このままだって大変な事になるなと思っただけなんです。確かに各地でそういう動きが高まっています。いいことです。ただ、調べてみると、今残されている雑木林のほとんどが、縄文時代の頃から人間の手に

東風

明窓浄机、という言葉がある。清潔できちんとした書斎のたたずまいをいうのだが、私にははたかその状態を怠りがちである。今月、対談でお伺いした中西 章さんの工房と云うか、アトリエと云うか、一見して清潔な空気に覆われていた。まずそのことに驚いた。中西さん、本誌で一年間、昆虫の細密画を連載してくださった画家である。これだけ繊細な画を製作する方だから、さぞ部屋のなかは取り乱しており、上へ下への大騒ぎであろうと想像していたのだが、現実はその正反対であった。私は「静謐」という言葉を思いおこしていた。ものを創作なさる方が、これほど静かなたずまいのうちに身を置くことが出来るのである。道具ひとつにしても、製作の段階であれが欲しい、これが欲しいということになって、乱雑を究めることにはなるが、一般であるも他人事ではない。わが工房も例にもれず、乱雑を究めている。あの参考書があればもつといい記事がかけられる、読者から送っていただいた資料は捨てるわけにはいかない。辞書も一冊ではコロンボナイから教習所は冊では機上はモノたちにより、うず高く積まれ「明窓浄机」からは程遠い状態に追い込まれる。本誌の創作者は明窓浄机派ではないだろうか、と中西さんと話しながらそう思った。夏葉の、吹き押されつ、えくてびあん

真味百撰 砂川の地に20年 気軽な昼食から大宴会まで 豊富な和食メニューでもてなす 千賀太郎 砂川4-9-1 / ☎35-3751 11:30-14:30, 16:00-21:00 / 火曜定休

月刊「えくてびあん」第157号 平成九年八月一日発行 発行所 えくてびあん編集部 東京都立川市曙町2-17-5 杉田ビル5F TEL. 35-3751 FAX 04-25(28)00662 編集人 立井啓介 印刷所 樹大出版

- ルミネ立川店 1F受付 ☎27-1411
オリオン書房 ルミネ立川店 ☎27-2311
ビューティーナカ ルミネ立川店 ☎27-6917
東京赤十字血液センター 立川出張所 ☎27-1140
朝日カルチャーセンター 立川 ☎27-6511
ロッテリア 立川ルミネ店 ☎24-7433
住友銀行 立川支店 ☎22-6171
三菱銀行 立川支店 ☎24-4121
ケンタッキーフライドチキン 立川店 ☎28-2636
さくら銀行 立川支店 ☎22-2151
フロム中武 1F受付 ☎24-7111
ホワイトハウス フロム中武 ☎25-8558
ばさーじゅ フロム中武 ☎22-1941
三上饅頭店 ☎22-3259

えくてびあんの輪 人があて、街があります。あなたがあて、立川があります。そこにちよつとだけ、えくてびあん! リストのお店にはいつでも えくてびあん!

- 自然食 ばれあな ☎24-4560
多摩画材 ☎22-6031
新藤青果店 ☎22-6443
丸助青果店 ☎22-3542
スーパーやなぎや ☎22-4322
肉の専門店 伊勢屋 ☎24-2734
洋菓子マリアン ☎24-3912
山梨中央銀行 立川支店 ☎26-1571
TIP-TOP CAFE RESTAURANT ☎25-2030
横町屋菓子店 ☎22-2609
フレンド書房 ☎27-1555
むぎばたけ ☎26-1210
池田屋商店 ☎22-3731
寿屋酒店 ☎22-3625



# 私の立川原風景 第一回

川島清子（富士見町）



◆ 富士見町夕照 ◆

中央線に乗って、初めて立川駅に降りたのは昭和四十一年の夏であった。

東京都の住宅供給公社が募集した「富士見町住宅」を見るためであった。南口からバスに乗り「農業試験場」で降りると、樹木がいっぱい茂り、暑い日盛りであったが緑陰の静けさと涼しさがあった。試験場から多摩川にかけて、ただ草が生い茂り、時折はるか向うにトラックと思われる車が、右から左に走っていくのが見えた。

入居したのは四十二年十二月の暮れ。35棟の団地がみごとに建ち並んでいた。

（画家）